

## 小金井市立保育園の今後の運営に係る保護者説明会 議事録

日時：令和3年11月28日 午前9時00分～午前11時11分

会場：小金井市立わかたけ保育園

対象：わかたけ保育園の保護者

参加者数：9人

○三浦保育課長 では、皆様、おはようございます。お寒い中、ありがとうございます。

引き続き、小金井市立保育園の今後の運営に係る保護者説明会のほうにお越しいただきましてありがとうございます。

私、本日、司会進行を務めさせていただきます保育課の三浦と申します。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、定刻になりましたので、始めさせていただきます。

まず何点か、開会に当たりましてご案内させていただきます。

1点目、携帯電話、スマートフォン等々、音が鳴る電子機器につきましては、音が鳴らないような状態にさせていただくようお願いいたします。

なお、トイレでございますけれども、出て正面のところに園のトイレがございますので、ご利用いただければと思います。

2点目、説明会でございますけれども、今回の場合も含めて、市のほうで録音させていただきます。録音した音声を基に議事録を作成いたしまして、個人が特定できないような形に配慮した上で、市のホームページにて公開をさせていただきますので、あらかじめご承知おきください。

なお、個人のプライバシーに配慮するため、参加者の皆様のほうによる動画及び写真の撮影、録音につきましては禁止とさせていただきます。よろしくお願いたします。

3点目でございます。場内換気に努めておりますけれども、説明会参加中はマスクの着用をお願いいたします。

なお、ご存じかと思えますけれども、保育園敷地内、全て禁煙となっておりますので、おたばこのほうもしばらくの間、ご遠慮ください。

なお、最後になりますけれども、本日の説明会、小さなお子様を保育をしている関係もでございますので、一応2時間を予定してございます。したがって、11時頃には

終了させていただきたいというふうを考えてございますので、あらかじめご了承をお願いいたします。

ご案内は以上でございます。本日につきましては、前回の説明会と同様の趣旨で開催させていただくものでございますので、資料につきましては、前回と同じものをご用意させていただいてございます。

なお、クリップボード、下の緑色のボードですけれども、こちら、退室の際にそのまま椅子の上に置いてご退室いただければと思います。

ご案内は以上でございます。

それでは、出席者の紹介をさせていただきます。

正面、小金井市長の西岡真一郎でございます。

○西岡市長 おはようございます。よろしくお願い申し上げます。

○三浦保育課長 市長の左ですね、教育長の大熊雅士でございます。

○大熊教育長 おはようございます。よろしくお願いいたします。

○三浦保育課長 正面左手、子ども家庭部長の大澤でございます。

○大澤子ども家庭部長 大澤でございます。よろしくお願いいたします。

○三浦保育課長 正面右手、保育政策担当課長の平岡でございます。

○平岡保育政策担当課長 平岡と申します。よろしくお願いいたします。

○三浦保育課長 それでは、会議に先立ちまして、小金井市長の西岡よりご挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

○西岡市長 皆様おはようございます。西岡でございます。

本日は大変お忙しい中、また、お寒い中、そして、日曜日の午前中という時間帯にもかかわらず、「新たな保育業務の総合的な見直し方針（案）」にかかる説明会にご参加、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

この後は着座にて、また、マスク着用のままお話をさせていただきます。発言者も着座のままとなります。どうかご理解のほどよろしくお願いいたします。

皆様方におかれましては、日々、小金井の保育行政にご協力を賜り、また、1年半以上に及ぶ新型コロナウイルスの感染拡大の防止への様々な取組にもご理解とご協力をいただいておりますことに重ねて御礼と感謝を申し上げます。ありがとうございます。

保護者説明会につきましては、前回6回開催いたしまして、多くのご意見、ご要望を伺ったところでございます。その際、時間的制約のある中、重ねての開催をご要望され

るご意見も多く、私といたしましても引き続き開催させていただくことといたしました。前回は、保護者向け説明会6回、市民向け説明会を2回開催いたしました。継続して、さらに保護者向け説明会を7回、市民向け説明会を1回開催する予定でございます。大きな2回目という意味での説明会としては、これまでにさくら、くりのみと2回開催し、今日で3回目ということでございます。そのため、本日の説明会は、初めて参加された方もいらっしゃるかと存じますが、この後、私のほうで若干お時間をいただいた後、再度質疑応答、またご意見、ご要望を伺うほうに重きを置く会とさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

前回の説明会の中で特に多くのご質問、ご意見等をいただいたものの中から、3点に絞りまして、冒頭、私の考えにつきましてお伝えをさせていただきます。

1点目は、「廃園する理由」に関してです。

この間、段階的縮小の後に廃園を選択した理由は、市財政のみではないかとのご意見を多数いただきました。小金井市が施策や事業を行うに当たって、財政の問題は無視できないものであり、これを念頭に置かずに事業を継続することはできません。そのため、今回の公立保育園の件につきましても、財政面が理由に含まれるということは事実でございます。

私といたしましても、市役所全体としての職員数の問題、また人件費の問題など、自治体経営という視点において、保育園5園を直営で維持し続けることは難しいという考え方を市長就任以来、持っておりました。

その前提の中で、今回の方針（案）を策定するに至った最大の理由は、公立保育園の運営者といたしましてお子様の安全を第一に考えた結果であり、今後、公立保育園は整備しないという方針の下、老朽化が進む施設に対して今から対応を定めるべきと判断したからでございます。

そのほか、今後、人口減少が見込まれる中で、待機児童も減少傾向にあることや、公立保育園自体、維持していく上での人材確保という重要な課題もあり、市全体においては、さらなる保育サービスの拡充、質の維持・向上のためにさらなる予算と人材が必要であることなど、様々な状況、背景を勘案し、策定させていただいたものでございます。

また、廃園の理由に関連いたしまして、今回の方針（案）では、小金井市の保育がよくなることが見えてこないというご意見もいただいております。跡地利用の件やサービス拡充の内容についての言及もございましたが、私といたしましては、別の施設を建て

る代わりに公立保育園3園を廃園するというものではございません。同じ保育行政の中で、これまで対応できていなかったことに対し、対応・充実を図ってまいりたいと考えております。

この間、ご紹介しております、今年3月に策定いたしました、すこやか保育ビジョンは、保育の質に重きを置いたものとなっておりますが、これまでも課題となっていた多様なニーズについても記載しております。

以前から課題となっていた、特別な配慮が必要なお子様への対応、幼保小連携、幼稚園、保育園と小学校との連携など、保育分野だけでも進めなければならない施策は様々ございます。今回取り組んでいく内容について、詳しくは方針案の9ページ以降に記載しておりますので、ご覧いただければと思います。

2点目は、「在園のお子様への影響や対応について」でございます。

私といたしましても、園児が少なくなることに對するお子様への影響がないとは考えておりません。特に異年齢保育ができなくなっていくことも、事実として認識しております。お子様の日々のケア、また、ご家族の支援につきましては、現場の保育士に担っていただくことに勝るものはございませんが、現場任せということでは決してなく、少しでも多くの取組ができるよう検討しているところでございます。そのような中で園児が少なくなってもお子様に対して何ができるかにつきましては、現在、現場とも相談しながら保育課において検討を続けております。

これまでの説明会の中でも、その取組の一つとして、例えば他園、他の保育園との交流、小学校との交流、地域との交流などをお伝えしてまいりました。中でも小学校との交流につきましては、保育園から小学校への接続という点で、切れ目のない支援ということにもつながると考えておりますが、未来の子どもたちのために今すべきことは何かという視点からの検討を進めております。この幼保小連携につきまして、市長部局と教育委員会という垣根を越えて、関係課で集まって、今後進めていくことを確認いたしました。

その関連もございまして、本日は、小金井市の大熊教育長にも出席をしていただいております。

今後、この取組を進めていく中で、くりのみ保育園及びさくら保育園での取組にまずは力を入れていくことになると考えています。

3点目は、「今後どのような形で合意形成を取っていくのか」、「スケジュールはど

のように考えているのか」についてでございます。

私といたしましては、公立保育園3園を段階的に縮小していくという考え方をお示しし、それを方針案という形にまとめ、現在、保護者の皆様、また今後、市民の皆様にも、引き続きご説明をしているというのが現在の段階です。

また、スケジュールという点では、公立保育園の役割や廃園に関し、有識者を交えた会議などで議論すべきというご意見、ご要望も多くいただきました。公立保育園の運営方法の見直しに関しましては、平成9年から長きにわたり、様々な場面での議論や検討が行われてまいりましたが、公立保育園の役割につきましては、市の役割という形で整理をさせていただいたほか、施設老朽化などの課題も顕在化してきておりまして、私といたしましては、さらに検討を続けるのではなく、市として判断をさせていただく時期に来ていると考えております。新たな会議体の設置などにつきましては、現在、市議会のほうで議員の方から、会議を設置するための条例案が提出されております。そのことにつきましては、議会のほうでご判断いただくこととなりますが、現時点での私の考えといたしましては、公立保育園の役割や廃園について議論する会議などを新たに設置するという考えはございません。

そして、この先、どうしていくかについてでございますが、前回8回の説明会でのご意見、ご要望、また、今回、市民説明会を含め、さらに8回の説明会でのご意見、ご要望なども踏まえた上で、次のステップに移るかどうかは、私が総合的に判断させていただきたいと考えております。

したがいまして、現時点で、いつ、何を、ということは申し上げられる段階ではございませんが、以前にご提案のあった保護者の皆様や父母会役員の皆様の賛否を問うような形ではなく、様々なご意見を踏まえて、私のほうで判断させていただくものと考えているところでございます。

この後は、11時ぐらいまでということですが、時間のある限り、皆様方と様々な会話、意見交換をさせていただき、また、皆様方からの率直なご質問やご意見、ご要望、また、ご提言など、しっかりお聞かせをいただきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

#### 【質疑応答】

○三浦保育課長 それでは、質疑応答のほうに進んでまいります。

発言に際しましては、ご着席のままで結構でございます。また、職員がマイクを持って回りますので、その場にてお待ちいただければと思います。お名前のほうもおっしゃらなくて結構でございますので、よろしく願いいたします。

では、ご発言をされる方、挙手をいただければと思いますが、いかがでしょうか。  
じゃあ、そちら。

○参加者 本日はありがとうございます。

最初の市長の説明の中で、廃園の理由の最も大きな理由として、子どもたちの安全を第一に考えているという、安心・安全というお話がございましたけど、これは施設の老朽化ということを指しているのでしょうか。それが一番の理由で廃園するという、そういう解釈でよろしいのでしょうか。

○西岡市長 ご質問いただきましてありがとうございました。

今、質問者の方がおっしゃったことは、そういった趣旨で私も申し上げさせていただきました。しかし、今回、段階的縮小から令和10年3月31日をもって、さくら、くりのみ保育園、その後、その状況を見て、わかたけ保育園というふうにご検討を案としてしてございます。その中では、施設の老朽化という課題もあります。これはもうまさに子どもたちの、お子様の安心・安全を守るということを念頭に置いています。そして、人材の確保という課題にも直面しております。また、費用の負担、財政的な課題というところもございます。民間保育園と公立保育園とでは施設面、運営の面でも、国や都から様々な補助が民間にあるのに対し、公立保育園にはそういった補助がありません。そういった人材確保、費用負担、施設の老朽化、こういった課題が段階的縮小による廃園という判断をした理由となっております。

あわせて、この間、人口が、年少人口は令和8年ぐらいをピークに緩やかに減少していく。市民の人口も大体、令和13年ぐらいをピークに緩やかに減少していくというのが今の傾向です。その中で、平成27年、私が市長に就任した当時、約1,700人ちょっとであった保育の定員数は、来年4月で4,000名弱となります。この6年間でかなり保育園が増えてまいりまして、定員も増えてまいりました。市民の皆様方には、かなりの選択肢は出てきたものとは思っております。そういう状況の中で、やはり将来的な保育の定員増、過剰な保育供給の飽和状態というのを将来的には避けなければいけないということも考えなければいけないと思っております。

そして、もう一つ重要なことが、常に保育のニーズに添えていく。保育の質、あるい

は保育のサービス。お配りしている方針案の12ページに大きく6項目を出させていた  
だいておりますが、今行っているものも、もちろんほとんどあるんですが、今行ってい  
るものをもっと充実させていく、保育ニーズをしっかりと高めていきたい。それから、こ  
れからしっかり行っていきたいということも明記させていただいております、この保  
育の質の向上に関しても、今後しっかりと取り組んでいくという状況の中にあつて、こ  
の段階的縮小から廃園ということを案としてお示しをさせていただきました。

以上です。

○三浦保育課長 いかがですか。はい。

○参加者 ご説明ありがとうございます。様々な理由があつて廃園という結論に至つたというこ  
と、お話と今解釈いたしました。結局は、私の聞いていて分かんなかったことは、何  
が決定的な問題で廃園に至つたか、廃園にしなきゃいけないかというところは、やはり  
ちょっと曖昧というふうに聞こえています。いろんな理由があつて、じゃあ、そのどれ  
かが解消すれば廃園をしなくていいのかどうか、その辺はまだ聞いていて分からないと  
ころもありましたし、その様々な理由の中で、決定的に何かがあつたから、じゃあ廃園  
にせざるを得なかつたというふうには聞こえなかつたというところでして。様々な理由  
があるので、様々な理由で、しょうがないから廃園にするのかなという、そういうふう  
に聞こえたところでございます。

ですから、私たちの利用者にとって、廃園するということはとても大きな問題と思つ  
てまして、そのとても大きな問題に対して、いろんな何か理由があるので、やめましょ  
うと言つてるようなふうにはしか聞こえない。逆に言つてしまうと、やめることを初めか  
ら決めていたから、そういう後づけでいろんな理由をつくつてるというふうにはしか今は  
聞こえないというのは、私の率直な意見でございます。

もうやめなければいけないという理由をもう少し具体的に、これができないから、も  
うこれは廃園にせざるを得ないんだというところをもう少しきちんと説明をしていただ  
きたいなというところが、そういうふうに聞いていて思ったところでございます。

○西岡市長 まだ説明が足りないということや、まだ納得できないという率直なご意見と受け止め  
ております。改めて申しますが、施設の老朽化というのは、段階的縮小から廃園するに  
至つた非常に大きな理由です。それはもう、建物の安全というのは、これはもう保育園  
をもちろん運営する以上は、もちろんこれも、もう絶対守らなければいけないこと  
ですが、将来的に市全体のことや、今、小金井市が直面している市の財政状況や、あるいは、

これからたくさんの方の公共施設をリプレースしたり、建て替えたり、長寿命化対策をしていくという中であって、この保育園の5園の今置かれている運営状況、こういったものを含めて考えたときに、私としては、先ほど申し上げましたように、施設の老朽化という課題、そして、人材を確保しなければいけない、今なかなか公立保育園の分野でこの保育を担っていただく人材を確保することは非常に難しい状況がずっと続いています。しかし、何とか頑張っています、それは当然、私たちの使命ですから。しかしながら、非常に厳しさを増しつつあるという状況の中で、今、懸命に踏ん張っているという状況だにご理解いただきたいと思います。

そして、保育園を運営する費用負担にあっても、先ほど申し上げましたように、今かなり保育の分野では、私の市長の意思として、子育て・子育て・教育環境の向上こそが小金井市のまちの持続発展につながると私は、確信してきました。平成26年、27年当時というのは、児童福祉費ってありますね。この児童福祉費というのは、保育園の運営費であったり、主に未就学児を中心として予算化しているものですが、この大体の年間予算が70億円ぐらいだったんですね。それを市民の人口で割り返すと1人当たり大体5万5,000円ぐらいでした、児童福祉費が。その位置づけというのは、三多摩26市の中ではワーストワンでした。一番低かったです。各自治体みんな、今、子育て政策にかなり力を入れてますが、そういう状況の中で、特に待機児の解消やこれまでできなかった保育のサービスや、あるいは保育従事者処遇改善や、あるいは認可と認可外、なかなか認可に入れなかった方、認証に行った方、利用料金格差があったので、その格差を是正する取組だったりとか、いろんなことに取り組んでまいりました。

結果として、令和2年度は、大体、児童福祉費の小金井の予算、約450億円ぐらいですから、そのうち、もう120億円ぐらいが児童福祉費。そして、1人当たりの児童福祉費、人口当たりの、1人当たりの経費も10万5,000円ぐらいになりまして、令和2年度決算では三多摩26市で、この金額がトップになりました。1位です。しかし、予算をかけたからといって、お金の金額の高さで、そのまちの自治体の子育て環境のよさにつながる、イコールだと私も思っていません。そんな甘い考えは持っていません。子育て環境というのは、まちの総合力だと思いますから。しかし、行政のやっている領域があまりにも少なかった。そう思って、この6年間、一応、努力はしてきました。

これからもその流れを大切にしたいと私は思っています。新しい保育のニーズもたくさんありまして、こういったものに答えていくということも非常に重要な側面になると

いうふうに考えているところであります。

そして、もちろん段階的縮小の後に廃園となれば、くりのみ保育園、さくら保育園でいえば、最後の令和9年度、令和9年4月1日から令和10年3月31日までは、5歳児クラスだけになってしまいます。そういった意味で、今まで担ってきた、いわゆる異年齢保育ということができませんので、段階的縮小の後、廃園となる保育園、これは、わかたけ保育園も、もちろんそういう時期になれば同じことになりますが、在園児の皆様方には、私、市長といたしましては、特別な対応をさせていただきたいと考えております。

以上です。

○三浦保育課長 はい。

○参加者 ありがとうございます。いろいろ説明いただきましたけど、廃園にするときのプロセスの話はいただいたんですけど、やっぱり廃園の理由については、ちょっとまだということがありますが、一旦、質問はこれで。また後ほど、またまとめて質問させていただきたいと思いますので、ご回答ありがとうございました。

○三浦保育課長 じゃあ、一回、それで。

ほか、いかがでしょうか。

じゃあ、前の男性。

○参加者 ●組でお世話になっている●●●と申します。この場を開いていただいて、市の皆様、それから、この場を提供していただいたわかたけ保育園の関係者の皆様にお礼を申し上げます。

私も幾つか言いたいことはあるんですが、まず大きく2点、お話をさせてください。

一つ目が、先ほどの人材確保という点で市長がおっしゃいましたけれども、以前の説明会の際に、小金井市の採用時期が遅いのではないかと。だから、ほかの行政さんでもう決まっている方が多い中で申込みが少ないのではないかと、そういったところに関するご意見があったかと思えます。

人材の確保というのは、やはりどういう、どの行政でも必要なもので、仮に市が後れを取っているということであれば、他市とそろえるといった、そういうこともできるのではないかなと思っていたんですけども、処遇改善という話もあった中で、今のそういう採用に関する事、人材の確保とはいいますけれども、保育士になりたい方は多いのではないかと考えております。そういった意見に対して、どのように改善を考えてい

らっしゃるかということをご伺いたいと、そういうのが1点です。

もう1点は、先ほども市長さんがおっしゃっていましたが、最終的にくりのみ、さくらの園児が少なくなる際には、特別な配慮をしていきたいということ、特別な支援ですね、おっしゃっていたと思います。具体的には、市内保育園との交流、近隣小学校との交流と書いてありましたが、これは具体的に何を指しているのかというのが分からないです。例えば、わかたけであれば前原小学校だと思いますし、さくらさんであれば第二小学校なのかなと思いますけれども、具体的に本当に何をやるのか。ただ単に行って交流をするといっても、いろんな考え方があると思うんですね。ただ行くだけではなくて、そこで何をやるのかということは、やはり必要だと思っております。

というのも、私自身が市内の教員をしておりますので、やはりこういうところは、幼保小の連携というのは、市とか保護者だけじゃなくて、私たち教員も同じだと思うんですね。そういった点から、どのような策を考えているのか、教育長もいらっしゃいますので、お話をお伺いたいと。

そして、これは廃園するからやるということではないと思うんですね。市内にある多くの保育園、もちろん公立ではない保育園さんとの交流というのは、やるのであれば、私は不可欠だと思っています。それをしなくて、廃園にするからやるというのは筋が違うなと思っておりますので、それはもしかしたら後づけなのではないかなと私自身は感じておりますので、何か提案等があるのであれば、お話いただければと思っております。

以上2点です。お願いします。

○西岡市長      それじゃあ、私、それから教育長、また部長、課長と、ちょっとそれぞれの立場からご答弁させていただければと思います。よろしくをお願いします。

まず、人材確保の関係でございます。採用時期が遅いというご指摘もいただきましたが、普通退職ということで、まだお仕事されている最中に、任期中にご退職をされるという方もいらっしゃいますので、その場合は緊急的な対応をしなければいけない。定年退職の場合は、初めから分かりますので、計画的に職員採用募集をして、採用試験などは打たせていただいています。

正規職員に関しましては、私、市長といたしましては、この正規職員の欠員に対しては正規職員で補充をしていく、対応していくということでこれまでも行ってまいりました。

一方で、公立保育園の分野におきましても、多様な働き方で保育を担っていただいております。様々な職種の方がいらっしやいまして、そういった皆様方の総合力で公立保育園は運営をしていただいております、特別、小金井市の採用が意図的に遅くしているということではないということをご理解いただければと思います。定年退職の場合は、じゃあ、詳細は担当部長のほうからお答えをさせていただきます。

○大澤子ども家庭部長 すみません、私のほうから、人材の確保の観点からというところで幾つかお話をさせていただきます。

小金井市自体、これは保育士も一般事務もそうなんですけども、昭和50年の後半から60年代前半で市の職員、なかなか採らなかったというふうな時代があります。ちょうど今その世代が定年退職とかというふうな形になってくるんですけども。保育士の場合、今の現状としては、これから延長とかという話もありますけど、60が定年という形になり、いわゆる50代という、これから定年を迎える方という形がなかなかいらっしやらなかった。または、状況によっては再任用というような形があったりとかという形で、コンスタントに、事務と違って定年の退職者がいないというような状況がございました。

いわゆる職員の普通退職、要は家のご都合とか、自主的な形の退職の申出があって、初めて採用の試験ができるというふうな形があり、今までの傾向とすると、大体このぐらいの時期ぐらいにちょっと年度末で辞めたいというお話が多かったというところが傾向としてあり、年明けに試験をせざるを得なかったというふうな傾向がございます。

ですので、あらかじめ前もって採用試験というのは、なかなかできにくいというふうなところがあるというところだけご理解をしていただきたいと思います。

それと、採用の改善というふうなところでいきますと、我々の、例えば今、市長のほうも話がありました、多様なニーズ、多様な働きという形で、正規職員というよりは、いわゆる30時間ぐらいの短時間であればというふうな希望の保育士さんは結構多かったところがあります。ですので、なかなか、今でいきますと育休の代替の職員さんであったりとか、ちょっと加配の職員さんが見つけれなかった状況がある中で、市としては会計年度さん、いわゆる週30時間の職員さんを少し、三、四年ぐらい前ですかね、ちょっと多めに雇用させていただいて活用させていただくという形で、内部ではございますけども、そういった採用の改善ということはさせていただいた経過はあるということだけ、すみません、まず冒頭、私のほうの補足という形で説明をさせていただきます。

○西岡市長 続きます、幼保小連携ですね。この後、教育長や担当からもご答弁いたしますが、幼保小連携については、この段階的縮小から廃園ということが方針案で定めたからやるということではありません。もともと幼保小の連携というのは、これはもう市として、全体としてやらなければいけない課題で、そして、もちろん接続する保育園と民間保育園というのは、何らかの接点はあるし、新しい保育園は構築中だと思いますが、総じて、この切れ目のない子育て支援につながるような取組が、市長としては、正直申し上げまして、弱い。あまりにも脆弱だと。もっともっと取り組まなければいけないと考えています。なので、全体的なこともやりますし、そして、市長部局と教育委員会で会議体をつくりまして、今後の幼保小連携を進めていこうということで、様々な議論をスタートさせていただいております。

なので、全体的な方向としては、もう、そういう幼保小の連携が取り組める小金井市の保育行政、保育と教育分野との連携というの、やりたい、やるべき、進めるんですが、ちょうど時期が重なったということも申し上げられているんですけども、とりわけ、くりのみ保育園とさくら保育園は、段階的縮小ということで、異年齢保育、集団保育、3、4、5歳が一緒に生活するような環境がなくなってしまうことは、これはもう、はっきりしてますから、なので、その2園の在園児の子どもたちには、子どもたちの目線に立って、特別な対応をしていく必要があるということを申し上げています。この方針案が生まれたから、幼保小連携やるのではなくて、幼保小連携はもう市全体の課題。これ、もうやらなければいけない課題なんです。

その中で、今これだけたくさん保育園ができましたから、特に民間保育園の数はこの6年間で、もう相当な数に増えました。ですから、公立だけではなくて、民間保育園の方々にも、そういった幼保小連携の取組をしっかりと進めていかなければいけないという認識を持っています。

私自身も市長になる前に保育園で仕事をしていたときに、杉並区でしたけれども、当時、振り返ってみれば、園長先生や5歳児がよく小学校に行っていたなど。いろんな情報共有していたんだなということを感じてはおりますが、小金井市の場合は、その辺の連携が非常に弱いということを感じております。

そこで、まずは全体的な幼保小連携を進めるのでありますけれども、特にくりのみ、さくらについては、特別な対応をやはり考えなければいけないと思っています。他の保育園との交流、地域との交流、小学校との交流、それ以外にもできることあるかもしれ

ませんが、やはりこういった状況になるのは、公立保育園では、くりのみ、さくら保育園が初めての状況でありますから、当然のことながら、保護者の皆様、そして現場の保育士の皆様方のお声もいただきながら、今想定できること、そして、段階的縮小という時期に差し加かってきて、入ったときに、あるいは入った後にこういうこともできるではないか。そういったことについては、柔軟にやはり対応していく姿勢があつて、もちろん計画、プランは立てるんですけども、段階的縮小を進めながら、子どもたちのために必要なことは、しっかり取り組んでまいりたいというふうに考えているところでございます。

○大熊教育長 本年度作成した新しい「第3次明日の小金井教育プラン」の中の、これまでなかったんですけども、その一文を付け加えさせていただきました。つまり、この事案が起きる前の話ですね。去年、これをつくっていたもんですから。34ページ、35ページのどこなんですけれども、幼稚園・保育園等との連携を図り、幼児期の教育や自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、小学校入学当初の各教科の学習に円滑に接続できるよう指導の工夫や指導計画の作成をするという一文を入れさせていただきました。

今回、これは、どうしてこのようなことを入れさせてもらったかという、市長から切れ目のない子育て支援を充実するよという指示があつたということが一つと、もう一つは、いわゆる国等の動きの中で、小1の壁という、保育園、幼稚園から小学校に行ったときに、そこにスムーズな接続がないというのが一つの問題になりまして、国もそのことについて対応策がもうすぐ出るという話を聞いておりますけれども、私どもも実際にそういうことを実感しているところがありまして、切れ目のない子育てができるように、保育園、幼稚園との連携を進めていく必要があるということ認識したもんですから、この計画に入れさせていただいたんですね。

しかし、これちょっと専門的な話になりますけれども、学校に対してこのようなことをやってほしいということは、なかなか教育委員会でもできない内容でありまして、教育課程の編成権は、あくまでも学校にあるという形はご存じかと思うんですけども。そういう意味では、現在、各校長に対して教育委員会のほうから、今後、今年教育課程の編成の中には、幼保小連携についての特段の配慮をお願いしたいという一文が入りますよという事前の話をさせていただいているところです。

特に、じゃあ、全校がそういうふうに一斉に進むのかという、これはまた難しい話

になりますので、パイロット校と、つまり先進研究校をつくっていく必要があるかなというふうに考えております。よく学校で、教育委員会ではやる手法なんですけど、その辺はご存じかと思いますが。そういうことでは、今回、どこでやってもいいということではなくて、やはり一番困っているところに対して特別な配慮をするように、特段の配慮を願いたいという形で近隣の小学校2校には、その話を今、具体的にしております、今後、計画的に実施できるようにという話をさせていただいているところです。

今のところ言えるのは、こういうところで、具体的にどのような内容をしたらいいかというのは、実は情報としては、学校には提供しておりますけれども、あくまでも決めるのは学校ですので、その辺は学校に任せたいというふうに考えているところです。

以上です。

○三浦保育課長 いかがですか。どうぞ。

○参加者 ありがとうございます。まだこれから具体的なところ出てくるということですので、もし、ある程度示せるのであれば、ぜひ盛り込んでいただければとは思っております。切れ目のない支援というのは、やはりどんな場でも必要だと思っておりますし、先ほどの方もやはり安全・安心というところがポイントだと。私もそう思っています。わかたけさんもそうですけど、3歳から5歳までの異年齢保育というのは、私、今娘が2歳なので、来年度そうなると思うんですけど、非常に大事だと思っておりますので、そういったものに代わるものとしてぜひ期待してます。もしまたあれば後ほどまとめてご意見したいと思っておりますので、一度切らせてもらいます。ありがとうございました。

○三浦保育課長 ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。

じゃあ、女性の方。

○参加者 ありがとうございます。2点質問させていただきたいです。

まず1点目なんですけど、廃園ということで決定されているかと思うんですけど、民営化するというふうなお考えはもうないでしょうか。なぜかという、ここの道、野川が近くて、園庭もあって、とてもすばらしい場所で、保育をする環境としてはとってもよいと思っております。なので、廃園してしまって跡地に何ができるかとかは分からないんですが、保育園としてこの土地を使っていただきたいなというふうに思っております。

2点目が、市の方が採用していただいたすばらしい先生方、こちらの方々も廃園後のお仕事、保育園の先生としてこれまでもお仕事を続けていけるものなのか、それとも、

違う職に就いてしまうのかというところがちょっと気になっておまして。親が口出しする話ではないんですが、本当にすばらしい先生ばかりで、新しく採用された、数年前に採用された若い先生方も本当にすばらしい先生で、子どもたちのことを考えてくれているので、これからも保育園の先生としてご活躍いただきたいなと思っております。なので、その点をちょっとお聞かせいただければなと思っております。

○西岡市長

ご質問、ご意見などいただきましてありがとうございます。

また、わかたけ保育園で働いている保育士の皆様に大変高いご評価いただきましてありがとうございます。現場の保育士さんたちは本当に頑張ってくれています。

民営化につきましては、これは民間委託であったり、民間移譲であったり、幾つかのいろいろな選択肢があるんですけども、この件については、もう長い間議論してきました。運営協議会の皆様方も、もう長い間議論をしまっていました。市の審議会も議論しましたが、出された答申は、いろんな両論併記ということで、一つの方向性がまとまって出されたものではありませんでした。そういった状況の中で、社会情勢も少しずつ変わってきているという状況があります。

私たちといたしますと、この段階的縮小から廃園ということに決めた一つの理由は、やはりこれは施設の老朽化という問題と人材の確保。仮に民営化をするにしても、そこでは保育士さんをまた集めなければいけないという責任が事業者を負わされます。また、民営化という面であれば、費用面では様々な利点は、公立に比べると依然としてあります。

ホームページで公表しているんですが、保育業務の総合的な見直しに係る見直し検討結果報告という資料をお出ししておまして、その中の19ページに、民間に委ねた場合、通常の場合や公私連携や事業団方式、また廃園という場合、あるいは園を統合した場合、あるいは一部を委託した場合など、全部で6パターンについて検証した結果を出しております。

こういう状況の中で、私たちが比較検証した結果でいいますと、やはり段階的縮小から廃園ということが今の小金井市にとっては、より求められているという、今後の見直し方針案だろうというふうに判断をさせていただきました。

民間に委ねたり、民間移譲したり、民間委託したり、いろんな方策がありますけれども、まず、大前提としては、受託しますよという、事業者の方が、分かりやすく申し上げると、手を挙げていただけるかどうかということでもあります。これがなければ、ずっ

と動かなくなってしまうですね。今のこの社会情勢や、今置かれている公立保育園の状況の中で、果たして民間事業者の方が小金井市の公立保育園を引き継ぎますよ、民間として運営しますよというふうにどれだけの事業者の方々が本当に手を挙げていただけるかどうかという点については、正直申し上げまして、不透明です。

そういった状況の中で、それは小金井市のいろんな条件があると思いますけども。しかし、私どもとしては、多角的に検証した結果、そして、運協ともずっと長い間議論してまいりましたけれども、なかなか結論が出せなかった。また、市としても運協から求められた様々な資料などがあるんですが、そういったことに十分にお応えもしてこられなかったという点もあります。ただ、議論はしてきましたし、協議はしてまいりました。しかし、そういう状況の中で、段階的縮小から廃園という選択を私たちは案という形でお示しをさせていただきました。

市長としては、長年、50年近く地域に密着して、たくさんの卒園児も輩出して、そして、保育士の皆様方も子どもたちと保護者の人たちと一緒に育てていただいた。これだけのやはり保育園を段階的縮小の後に廃園するという事は、もうこんなつらい選択はありません、正直申し上げまして。正直に申し上げれば、この選択は、好きこのんで取れる選択ではありません。これだけ説明会もやってまいりましたが、非常に厳しいご意見や、悲しいというご意見、私の元にも卒園児の子からお手紙が届いたりしています。しかし、それでも小金井市の将来のため、保育行政のためにやらなければならないという、本当につらい選択をしなければいけないということは一応申し上げてはおきたいとは思っています。

しかし、その代わりというか、その分、私としては、小金井市の保育をやはりもっともっと高め、そして、もっとニーズに応えられる。そして、子育て・子育て・教育環境の向上につながるようにしなければいけないと思っています。この段階的縮小から廃園という選択を2園取った場合には、約9年間で27億円ぐらいの財政効果があるというふうに試算をしています。

よく質問されることなんですけど、じゃあ、その財源は何に充てるんですかと、冒頭から言っていますが、この財源は、その全てを私は、妊娠、出産、子育て、あるいは子育て・子育て・教育環境の向上、子どもたちのためになる、小金井市の将来を担う子どもたちのためになる分野に充てていきたいと思っています。

そして、この跡地は、ぜひ保育園で継続していただきたいというご意見、ご要望もい

いただきました。まず跡地については、今こう使いますということは決めていません。一切決めていません。先にそれを決めてしまえば、それはちょっと順番が違うだろうと思っているんですね。なので、本格的な検討というのは、この方針案の案が取れて、この方向で進むということが明確になったら、本格的な検討になりますが、市長としてのこの跡地の有効活用の方策としては、長い間、保育園として、公共用地として、長い間、半世紀にわたって使ってきたという歴史はありますから、そういった地域の歩み、こういったことに鑑みて考えていきたいと思っています。

したがって、この跡地をもう民間に売却して、宅地にするんだとか、そういう考えは今持っているわけでは決まてございません。公共用地として、これまでの歴史を踏まえて、どのように有効活用するのがいいのか、そこは考えていきたいというふうに思っております。

それから、公立保育園から民間保育園に、ちょっと話は戻っちゃうんですけども、運営を委ねた場合に、いろいろと指摘されていた点があるんですね。それは、引継ぎ期間は一定期間、1年ぐらい普通置くんですけども、結果としては、民間に委ねた場合は、もうある段階から一斉に保育士が替わってしまうと。そのことに対する不安はものすごく出されていました。特にゼロ、1、2、3ぐらいのお子さんですね。1年間引継ぎがあるものの、もう民間委託したら4月1日から保育士さんも全部替わります。そのことに対する不安というものがありません。

また、施設が老朽化してますので、その老朽化している施設についても、民間移譲する場合には、民間の方々も、どういう環境面で自分たちが事業を担えるのかということも当然考えると思うんですね。なので、施設状況ということも判断材料にあるなということがありますが、全てを新築にしてから民間委託をするというのも、これはまた非常に難しい面がありますし、じゃあその間、子どもたちはどうするのかということになる。保育園に現地再整備ができないんですよ。新しいところに新天地を見つけるか、あるいは、一旦引っ越しをして、それで更地にして、また建て直して返ってくる。この大きく二つがあると思うんですけども、それはそれで、子どもたちにも非常に場所が変わってしまうという、どの道を取るにしても大きな負担があることは、この道を取る場合には、あるということ。様々ご指摘をいただいていたということがあるということもどうかご理解いただきたいと思います。

○平岡保育政策担当課長 平岡と申します。よろしくお願ひいたします。

2点目の今、働いている保育士の関係ですけれども、本日お配りしている資料の12ページをちょっとご覧をいただければと思います。すみません。先ほど市長から若干触れました今後の保育サービスの拡充のところなんですけれども、公立保育園の残る3園、まず2園を段階的縮小させていただくということになりますので、そちらに勤務している保育士などの職員については、残る3園のほうに新しい事業をやってもらうために、もしくは若干の体制強化的な部分もあったりしまして、そちらのほうに、役所のほうで言わせていただくと異動のような形に順次なっていくことを考えています。具体的な配置については、ちょっとまだ詳しくお伝えできる状況ではないんですけれども、これによって、極端な話、保育士ではなくて、事務の仕事をしていただくとか、そういうようなことは全くなくて、引き続き保育士さんとしてお仕事をさせていただくというふうに考えております。

ただ、5点目、6点目にあります市内の巡回支援チームに加わっていただいたりですか、ガイドラインの普及というようなあたりのお仕事になりますと、直接お子さんと触れ合うというよりは、小金井市の保育の全体を見ていっていただくような、そういう視点でのお仕事に替わるということはあるかと思っておりますけれども、職として、保育士さんとして引き続きお仕事をさせていただくという視点では変わりはないということになります。

以上です。

○三浦保育課長 いかがですか。取りあえずは大丈夫ですか。

○参加者 ありがとうございます。

○三浦保育課長 では、次のご質問。

じゃあ、最前列の女性の方。

○参加者 ●●●と申します。日頃より市政にご尽力いただきありがとうございます。

先ほどの女性の方の質問ともちょっと重複するところはあるかもしれないんですけれども、2点。

1点目が前回の説明会でちょっと持ち帰って検討いただくと書いていた課題の状況と、あと、2点目がちょっと要望になるんですけれども。

まず1点目なんですけれども、まず1点目なんですけれども、前回の説明会のときに、わかたけ保育園に関しては、9ページ目以降にある案の保育サービス拡充内容が、わかたけ保育園がある前提で、存在する前提でまとめられていて、かつ、この前原坂下地域

は、保育園用地として活用できる土地の確保も難しいという特殊性の2点から、この案の中で、廃園対象園にわかたけ保育園というのを入れないように見直しできませんかということ要望しました。

存続、民営化と廃園のいずれができていくか、施設の利用の限り、ぎりぎりまで議論できるように、案を見直ししていただけないかということで申し上げたんですけども、その場では意見として承っていただきましたが、ちょっと現時点での検討状況をまず教えてほしいというのが1点目になります。

2点目なんですけれども、先ほどの女性の方も跡地がやっぱり保育園がいいんじゃないかという話がありまして、ちょっと私も同じ考えです。この案の中では、老朽化する3園という、わかたけ保育園がほかの2園と一くくりに検討されているんですけども、3園それぞれに特色があると思っていて、わかたけについていえば、例えば利用者満足度が高いということと、あと、豊かな自然環境が周りにあること、また、先ほども申し上げたとおり、周辺地域に保育園が少なく、保育園用地として活用できる土地の確保も難しいという特殊な地域であるということ、あとは、この保育園に通う方々は前原学童とか、南学童とか、ごきょうだいがいらっしゃる方も多くて、近年民営化された学童に通っていらっしゃる方も多いので、民営化のイメージというのも何かついてきているのかなと思っています。

これまで実施してきた保護者アンケートや意見シートからも分かりますとおり、私も含めてなんですけれども、多くの保護者の方々が何十年もかけて築き上げてきたわかたけ保育園の文化や風土、また、保育士さんたちの経験やノウハウというものが廃園することによって一瞬で消えてしまう、無になってしまうということを変な悲しさとか寂しさとかを感じていると思います。

なので、このような状況なので、廃園よりも、文化とか風土とか少しでも残す余地のある民営化のほうがまだ受け入れられるのではないかなと思って、他市の状況とかを調べたら、何かやっぱり先ほどおっしゃっていたとおり、民営化が可能なのは施設が老朽化していないということが何か前提なのかなと思っていて、民営化のためには、やはり一度建て替えが必要で、財政的に難しい状況なのかなということも思いました。

ちょっと私なりに何とか、このわかたけ保育園の文化と風土を残せないか考えてみたんですけども、ここの跡地のところは、この前原坂下地域の特殊性から、やっぱり民間の新設園としかかなり得ないのかなと思っています。その場合に、これまで市が民営化

する際に検討してきたガイドラインと同じように、新設の民間園の運営業者がわかたけ保育園の保育方針を尊重して培ってきた保育を継承、発展できることのできるような園を市が公募選定していただいて、選定後の引継ぎを着実に実施するように計画を練っていただけないかと思っています。

それで、民間園が開園した後に、わかたけ保育園の元園長先生とか、元保育士さん数名に合同保育を半年とか1年とか、そういったスパンで実施いただいて、わかたけ保育園の文化や風土が引き継がれていくように、ちょっとここは、そのための追加の予算が多分、人件費とか、数千万円かかかってしまうかもしれないんですけども、この何十年、50年、60年という歴史を考えれば、そんなに高くないのかなと私は思っています。

なので、ここにいらっしゃる方々の中で、やっぱりこの伸び伸びした雰囲気は何か公務員だから出されているとか、公立保育園の役割があるから公立でないといけないという方もいらっしゃるかもしれないんですけども、私個人としては、ただ単に廃園します、跡地は小金井市の未来のために活用しますというふうにするのではなくて、わかたけの文化とか風土とかがしっかり引き継がれる仕組みを案の中に入れていただいて、この園庭も広くて、すばらしい自然環境の中に私立保育園が跡地にできるというのであれば、私はやっぱり、その跡地に来た保育園を第1志望にしたいと思いますし、そうしていただけたらいいなと思っているので、これはちょっとご提案なんですけれども、ぜひご検討していただけると幸いです。

以上です。

○平岡保育政策担当課長 前回、検討というお話をさせていただいたところですけども、わかたけ保育園の、今、書かせていただいている方針案の中で、その後のことについては決めていないという形で止めさせていただいている状況がありますので、その後、今後どうしていくかという検討させていただく中で、いただいたご意見も含めてというようなご趣旨でちょっとお伝えしたかったというところがまずあります。

ですので、今、2点目のご要望もいただいたことについて、ちょっと全面否定するというつもりではないんですけども、この時点で、今考えている、わかたけを廃園というくりから、このタイミングから外すとか、違う考え方に入れていくというような考え方は、市のほうで現時点では難しいかなというふうに思っています。

ただ、先ほどというか、これまでの説明の中で、若干、余地を残すような発言をさせ

ていただいたのは、わかたけを廃園対象としますということ以外は、一切中身については何も決まっていない状況がありましたので、それを検討していくタイミングが今後出てきたときには、これまでいただいた意見なども参考にさせていただきながら検討していきたいというふうに思っております。

この後、市長のほうからもお話をさせていただくことになるかと思うんですけども、なかなか今、私たちの中で、わかたけだけを民営化にちょっとスイッチしていくというところでは、ご意見として当然出てくるのは理解するところなんですけれども、方針案の中で切り替えていくというのは、なかなか難しいなというのが正直な思いです。一旦2園、段階的縮小をした後、3園体制でやっていくということを念頭に置きつつ、わかたけさんの施設の老朽化なども考えながら、どうしていくかというのを今後考えていくというのが基本スタンスになるかなというふうに思っておりますので、ちょっとお答えになっていないような部分もあるかもしれないんですが、そういうような意味での今後の検討というような形で改めてお答えをさせていただきます。

○西岡市長

ご提言を考えてきていただいてありがとうございました。半世紀にわたるこの運営してきたわかたけ保育園の跡地を、やっぱり子どもたちのためにも保育園で使っていただきたいと、そういったご提案もあったのかなと思っていまして、お聞かせいただきました。ありがとうございます。

7ページには、このわかたけ保育園の段階的縮小の実施の時期については、今後の社会情勢や、2園、くりのみ、さくら保育園の段階的縮小の状況及び市内保育ニーズの状況等を踏まえつつ、今後決定することとすると書いてございますので、はっきりしていることは、0歳児の募集停止をいつに設定するのかというところが、もうまさにこの2園の状況を見ますので、当然廃園する時期はもう令和10年4月1日よりも後になります。どの段階からスタートするか。段階的縮小ですから、スタートするにしても、約6年間かかるわけですね、段階的縮小します。なので、仮に令和10年の4月の1日からわかたけ保育園の0歳児募集をもしもスタートするとすれば、令和16年4月1日廃園ということになるかと考えます。

そして、そのときに、小金井市の保育園の状況、人口、ニーズ、需要と供給のバランス、ここをなかなか読み切るのは難しいんですが、その時代に今起きているような待機児童という現象が起きているかどうか、これはなかなか難しいですが、ないようにしなければいけないと思っています。

ちなみにですけれども、かなり今、民間保育園、相当充足してきていて、0歳児も4月1日、今年、51の空きがあった。今は埋まっていますけどね。対象は、もう1歳児が待機児童の対象です。来年4月1日までに四つの新しい認可保育園を開設します。270名ぐらい、さらに定員が増えます。これで定員は大体4,000名ぐらいになります。恐らくは、待機児童はゼロに近づいていこうと思っています。

なので、保育の定員数と人口動向というのは市がしっかりと見極めていかないと、飽和状態になってしまえば、保育園全体の経営状況にも関わるので、適切な保育定員数というのをしっかりバランスを取っていかなければいけないと思うんです。

なので、このわかたけ保育園の跡地を引き続き保育園として民間の人に土地を貸すとか、そういったことを考えられる状況かという、今の状況ですと、その先の状況で、またここは保育園にしますと限定的に決めてしまうことは非常に難しいとは考えます。お気持ちはよく分かるんですね。伝統と文化を守ってほしいんです。そのお気持ちは十分分かるんですけれども、やはり公共用地ですから、公共性の高い利用の仕方を考えなければいけないし。ただ、市長として、現時点で申し上げられるのは、保育園ということですとずっと担ってきた土地ですから、そういう土地柄というものも念頭に入れて、今後、跡地の活用については考えていきますが、段階的な縮小はまず2園先行なので、まずは、くりのみ保育園の跡地とさくら保育園の跡地のほうについて、この方針案の案が取れば、まずはそこを先行して考えていくということになるかと思っています。現時点では、必ず民間保育園の方々に土地を使ってもらいますと断言できない難しさがあることをどうかご理解いただければと思います。

○三浦保育課長 いいですか。

○参加者 ありがとうございます。難しい状況というところはちょっと理解したんですけれども、ただ、この保育園、利用者の満足度の高いよい保育園だと思うので、やっぱりその文化とか風土とか残るような何か解決策を今後、これから廃園した後にいろいろ具体的に練っていくと思うんですけれども、そういったところも考慮いただきたいなと思っています。

○三浦保育課長 ありがとうございます。一回いいでしょうか。

○参加者 はい。

○三浦保育課長 じゃあ、次の方はいかがでしょうか。

では、男性の方。

○参加者 今のお話にも関係していますけれども、わかたけが廃園に仮になる場合、令和10年から始まって、16年完了とした場合、令和16年には、もう築年数が65年になるんですけども、後半のほうでの建物の耐久度とか、安全面は確保していくことは大丈夫なんでしょうか。

○西岡市長 先ほど申し上げたのは、あくまでも仮定のことでございまして、保育園を運営する上で建物の安全性は、これはもう必ず守らなければいけない課題です。なので、市長として現時点でお答えできることは、運営する限り、建物の安全性はしっかり守る。そのことに必要な手だてはしっかり講じていく。もうこれに尽きるかと思います。

しかし、この廃園、段階的縮小から廃園する時期については、くりのみ、さくらの先行的な取組や状況を見ながら判断をしていきますけれども、その中に、もちろんくりのみ、さくらより前になることはもうないわけです、この計画では、その後、3園目ということになっていますから、後になることは間違いないんですが、建物の安全状況も当然、段階的縮小を実施する上では判断材料の一つにはなろうかと思います。

○三浦保育課長 じゃあ、いいですか。

○参加者 はい。ありがとうございます。

○三浦保育課長 そのほか、いかがでしょうか。

本日、人数も少ないので、無理にご質問をいただく訳ではないんですけど。どうされますか。

じゃあ、女性の方、どうぞ。

○参加者 よろしくお願ひします。

何かいろいろ難しい話というものは私にもよく分からなかったりとかしますし、説明会、前回もありましたし、ちょっと聞かせていただいたりとか、この説明書だったりとか、案だったりとかもすごい読み込んだんですけども、やっぱり自分の中で理解できない部分もいっぱいあり、説明会に一生懸命、やっぱり聞きに行こうというような、市側の意見を聞きたいという一心でまずは聞いてはいるんですけども。

まず、挨拶していただく時点で、案というような文言があるけれども、ほぼ決定というような形だったりとか、意見交換をさせていただきたいというような、何か頭を下げさせていただいて、皆さんとというような気持ちを受け止めてはいるんですけども、ほぼ決定して、強引に進めていきたいので、ただ、取りあえず説明をさせていただきたいような状況でしか、何かもう感じ取れないような形で、もう文章なりなんなり。お金

のこともすごく分かります、主婦ですし、やっぱりそこも大事にしていかなきゃいけないということもすごく分かりますし、説明されている金額とか単位というのは、はっきり言って、私ども主婦には全くよく分からないような、計算ができないような金額の単位となってきますので、理解ができないから、そこについてちょっと意見を出したいという気持ちはさらさらないので、ただ、もう仕事外というところにもなってきます。

ただ、やっぱり今の状況を考えて、自分も小金井がいいという形で引っ越してきました。ずっとここで育っていて、じゃあ、今わかたけがいいから、すごく残してほしいというよりも、小金井がいいから引っ越してきました。杉並から引っ越してきたときに、すごくいろんな状況の変化についていけない部分もありましたけれども、今、本当にやっぱり小金井のここの保育園に子どもたちを育ててきてよかったなと思う部分もたくさんあります。親のニーズがあるから駅前の保育園をいっぱいつくるというのもすごく分かるんですけども、親になったときというのは、変な話、自分しか考えてなくて、子どもに対して、子育てに対して、ちょっとやっぱり不安があったりとか、もう保育士さんに頼る部分がすごくあって、自分本位で仕事もしているからというところで駅前につくってもらいたいという意見がすごくあると思うんです、ニーズとしては。

ただ、実際に入ってみると、駅前で庭がなくて、全く子どもたちが何かもうビルの中でずっと保育をされててということを見ると、だんだんとやっぱり庭があって、子どもたちの笑顔がたくさんあって、外遊びをして、本当に小金井が大事としている小金井公園がそばにあって、野川がそばにあって、そこに散歩に、本当に目の前で行けて、そこで楽しく遊んでくれている姿というのを考えると、保育士さんたちにも感謝ですし、小金井市の、今までこの場所に保育園を造ってくれたというような状況も本当に感謝をしています。

もう本当に子育てに関して不安でしようがないような今の状況を、やっぱりコロナがあったりとかもする中で、もう学校に行っててという、ここを卒業した子どもたちのことも考えると、ここのすごくありがたさみたいなものも感じていますし。

ただ、教育に関してということで、すごく今、皆様が教育に力を入れると言っていますけれども、もう時代の流れとして、オンラインの授業も始まっていますし、パソコンだったりということもあります。でも、やっぱり不登校の子どもたちも増えてたりとかする中で、保育を駅前だけに集めて、民間の業者だけにさせていただくというので、個人名まで、会社名まで上げるつもりもないですけども、あまりいいところがなかったり

とか、保育に関して、募集する保育士さんに関しても、結局は駅近だから、何とかだからという文言で保育士を募集しているところばかりで、そういうところに実際に子どもを預けたいかってなってくると、ちょっと問題があるんじゃないかなとか、不安になってしまうんじゃないかなというところもすごく感じていて。そこが本当に、ずっと子どもたちに関して愛情を接してくれている保育士と共に、成長を、親に対しても子どもに対しても持っていってくれるのかなというのは、今ここで思うとすごく不安です。

なので、どんどんどんどん民間の、今年も四つ建てますみたいなことをおっしゃってくれてますけれども、取りあえず数で保育をこなしていけばいいとか、待機児童がなくなればいいみたいなところでしか、ちょっと気持ちが伝わってこないといえますか、本当に民間の業者の方たちの中身の質のところであって、親のニーズというところだけじゃなくて、保育の本来である質をきちっと見極めてくださってるのか、何を根拠として、しっかり保育を行っているということを認識されているのかというところの定義みたいなものもちょっと理解できないので。何に関して認識されたのかとか、やっぱり将来的に1歳、0歳から、やっぱり6歳、5歳という、その小学校に上がるまでの保育をきちっと見ていただける保障みたいなものじゃないですけども、保育士に対して、親じゃなくて、母親じゃなくて、保育士というきちとした免許を持った方たちがしっかりと保育をしているという最低限の状況というのは把握されているのかなというのがちょっと不安になってきます。

株式会社というのは、やっぱり経営云々というところで始まるのは、もう絶対もってあると思うんですね。だから、その辺というのは、どう思ってもらっしゃるのかなと思います。

○西岡市長      いろいろな思いを聞かせていただきました。ありがとうございます。

多面的なご意見が出ましたので、もし答弁が不足していたらご指摘いただければと思います。

まず、この進め方でありますけれども、双方で多分11回目、まずは16回説明会やらせていただいて、私も全て出席いたします。これまでも全部出席してまいりました、全ての説明会。そして、皆様方からの不安、疑問、ご意見、もちろん撤回すべきだというご意見もありましたし、もう実に多様なご意見をいただいております、真摯に小金井市が方針案を策定するに至った経過や、今後の考え方や、どういう分野の保育を、質

を高めていきたいのか、本当に時間が足りなかったのか、今回また大きな意味の2回目になっています。

決して強引ということではなくて、まずは、私たちが長い間、平成9年から、私が市長になったのは平成27年からですけども。平成9年からずっと続いてきた小金井市の公立保育園に掲げられてきた長年の課題というのを、やはりどこかで解決しなければいけない。そして、当初は民間委託、民間移譲、そういった分野で議論もしてきましたけれども、そちらについてもなかなか結論が出ない。その中で社会情勢もどんどんどんどん変わってきている。制度もどんどんどんどん変わってきている。そして、人口も将来、緩やかでありますけども、減少していくということがほぼ見えてきている。そういった状況に鑑みまして、今回、方針案というものをまとめさせていただきました。

この方針案は、市議会に条例改正を上程させていただいて、これがご議決をされないと、この方針案は決まりません。したがって、市だけでももちろん決められるわけではありませぬので、そういった意味からも、保護者説明会だけではなくて、市民説明会も開催させていただいて、公立保育園の元保護者のOBの方や、元OB職員の方なども発言されて、いろいろなお意見をいただいております。相互理解を果たせるように私としては今、全力で取り組んでいるさなかにあるというふうにご理解をいただければと思います。

公立保育園、特にわかたけ保育園のすばらしさ、こういったものをしっかり残してほしい、民間の保育が心配だ。あるいは、駅前保育で本当に大丈夫なのか。いろいろなお意見をいただきましてありがとうございました。

まず、私たちとしては、そういった公立も民間も、認可保育園、そして、認証保育、家庭的保育、小規模保育、いろんな形態の保育園がありますが、保育を担う方々の共通の柱として、初めて小金井市保育のすこやか保育ビジョンというものを策定しました。これは今年の3月に策定しました。約2年間かけて公立保育園の関係者、民間保育園の関係者、学識、公募市民、大変多くの方々に委員になっていただいて、小金井市共通の、公立であっても、民間であっても、どういう立場にあっても、小金井市内で保育を担う皆様方と共通の旗印をつくらう、ビジョンをつくらうということでつくったのが、小金井市すこやか保育ビジョンと。そして、その質を維持、向上していくためにつくったのが小金井保育の質のガイドラインというものでして、このことに多くの関係者の方々と一緒に同じ方向を向いて取り組んでいくのがとても大切なことだと思っております。

今般、この方針案に基づいて、書いてありますけれども、この取組をさらに深めていくために、保育課の中に専門チームを置いて、市全体の保育の質を高めていく取組に大きな一歩を踏み出させていただけたいと考えているところです。

私自身も株式会社立の民間保育園で働いていました。総じて、私も勉強させていただいたのは、公立であっても、民間であっても、保育士の皆様方はもちろん一人の人間です。そして、子どもたちのために、私はほかの民間保育園も市内で交流したり、先生たちと会ったり、園長先生とお話しする機会ってかなりあるんですけれども、もう皆さん、本当に一生懸命、私は頑張っていたと思っています。

一つ一つの民間保育園には、民間保育園の掲げる保育理念というのがございます。これは東京都の児童福祉審議会という審査を経ないと新しい保育園を開設できませんし、厳しい監査なども必ず数年に1回入ってきていると思っています。

なので、総論的になってしまいますけれども、小金井の地で民間保育園を開設していただいた皆様方とは、民間には民間の保育理念があるし、保育士の人たちも一生懸命、私は頑張ってくださいっていると信じておりますが、このビジョンと質のガイドラインを共通の旗印として、いい方向、いい保育をみんなで目指していきましょうということにしっかり取り組んでいきたいと思っていますし、公立保育園も小金井市も、その役割でまさに担っていくんだというふうに思います。

確かにご指摘のように、駅前の保育園を希望する人は非常に多いです。それはもう間違いありません。そして、駅前の保育、駅に近くなればなるほど、やはり土地の取得も難しいので、園庭がある保育園というのが少ないのは、もちろん事実であります。したがって、どの保育園にお子様をお預けになるかは、これはもう保護者の方々のご判断ですし、何を、どの基準をもって選ばれるのかももちろん保護者の方々のご判断と思いますが、市として努力してきたのは、やっぱり選択肢を増やすということには心がけてきました。決して駅前だけに集中して保育園をつくってきたわけではありませんが、園庭のある保育園もかなり開設していただきました。武蔵小金井駅の北口になりますけれども、小金井公園の近くであったり、緑町であったり、桜町であったり、第一中学校の近くであったり、園庭付きの保育園がやはり望ましいというか、そういうご意見を結構いただくので、私たちは保護者の方や議会からもですね。しかし、駅前保育を望む方もいらっしゃる。なので、そういった地域のバランスを見ながら保育園を開設してきたということには努力はしてきたつもりでございます。

いろいろ不安であるというお気持ちはお聞かせいただきましたけれども、市長といたしましては、市全体の保育の質を高めていくということは、これはもう小金井市の責任ですから、民間保育園の方々ともこれまで以上に情報共有しながら、園長会、いろいろな機関、会議体がありますけれども、そういった場も活用しながら、この小金井市すこやか保育ビジョン、小金井市保育の質のガイドラインの共通の旗印に向かって取り組んでいく、そういった取組を推進していきたいというふうに考えております。

○三浦保育課長 いかがですか。じゃあ、もう一度、何かありましたら。はい。

○参加者 ありがとうございます。お答えいただいたことで、すごくそうだなというようなこともありますけれども、その案というのがすぐにこれが、じゃあ、そのまんま通るかどうかは分からないって言いますけれども、じゃあ、それに対して、じゃあ、今のこの案の状況をまたやっぱり運営協議会というところで何年も何年も話し合いをしてというところはないということなんですよね。もう決定として、やっぱり協議をするというような状況ではない、もうほぼ決定ですよ、でも、そうなってくると。案を決定とさせていただきますというような話にしかやっぱり聞こえなくてという感じなんですけども。

○平岡保育政策担当課長 平岡です。

案という位置づけのところがなかなか難しい、よく分からないというお話を伺うところなんです。今までの進め方と今回の進め方と、確かに同じではないというところはあるのかなと思っているんですが、今回、市のほうで出させていただいたのは、ざっくりしたようなお話から議論をしていくという状況ではなくて、市として、ある程度の方針をまとめさせていただいたものをお出しして、説明をさせていただきながら、先ほど市長も申し上げましたとおり、相互理解をまずは図らせていただければというようなやり方でさせていただいています。

ですので、極論でいうと、多分これが覆らないのかというお話なのかなと思っているんですが、私たちとしては、これでやらせていただきたいというところでまとめさせていただいているというスタンスでお話をさせていただいているのは事実です。ですので、もう市は決めちゃって、全然変えるつもりないんですよというようにお話をいただいているのは、そういうところかなというふうには思っております。

私たちのほうとしては、今いただいたご意見の中で、今回この中に盛り込んでいけるものですか、まだまだこれから先、もっと決めていかなきゃいけないことも多々ありますので、そういった部分についてのご意見、反映させていただくというところもある

かなというふうには思っております。

あとは、これをどれくらいのスピードで、どう進めていくかというのも、こういったご意見や、また、お話をさせていただきながら、最終的には市長のほうで、我々も含めて決めていくことになるかなというふうには思っているんですけども、もし進んでいったとしても、最終的には市議会のほうでどうなるかというところを判断していただくというようなプロセスが最後には残っているというようなところになります。

ですので、今、最初に言っていただいたような内容も含めて、利用されてきた方々におかれましては、こういうふうな考え方がある、こういう考え方はできないのかというご意見は大変恐縮なんですけれども、市としてもいただけることについては大変ありがたいというふうに思っております。ただ、私たちとして、この方針案がどうなっているかというお話となりますと、今、私たちとしては、これでやらせていただきたいという考え方でご説明をさせていただいているという状況であることはお伝えをさせていただきます。

○大熊教育長 僕は、この説明会、2回目なんですけど、前回、あの話を聞いて、実は先ほど質問があった内容で、幼保小の連携を進めるということには大きくかじを切りました。そのことについて、しっかり校長に連絡をしました。ここに書いてあることなんですけど、どれを重点化するかというのは、これから決めることですので。そういう意味でいえば前回出て、教育委員会としての方向は一つ定まったかなと、そんなふうに思っていて、方針案なんですけど、私どもができるところは、精いっぱいやらせていただきたいというふうに思っているところです。

○参加者 ありがとうございます。

○三浦保育課長 一旦よろしいですか。

では、次の方で、もしあれでしたら、ご発言いただけない方。

じゃあ、女性の方、すみません。

○参加者 すみません、質問でもなければ、ただの感想になってしまうんですけども。多分、私たち保護者の中で、何で腑に落ちないんだろうということを考えたときに、先ほどから教育環境の向上に力を入れているとおっしゃっていただいたり、保育の質を高めることが使命だということを度々何度もお話しされているんですけども、それと公立保育園をなくそう、老朽化でもう建て直すお金もないし、それが安心・安全に子どもたちを守るための使命だからという説明が真逆だからなのかなと思っています。

先ほどの方もおっしゃっていましたが、たくさん待機児童解消のためにご尽力いただいて、預け先をしっかりとつくってくださって、私たちが働きながら子どもたちを養っていける環境があることはとてもありがたいと思うんですけども、教育環境や子どもたちの環境をよくしようって前を向いているはずの小金井市がこれだけすてきな保育をしてくださっている公立保育園を、老朽化を理由に、財政の問題なので一般の私たちには分かり得ない大変な問題があるのは承知なんですけれども、それを理由になくしてしまおうという結論に至ってしまったことがすごく残念だなと、ただその一言です。

保幼小連携の話で、遊びを通して育まれる子どもたちの力を小学校の滑らかな切れ目のない接続にということをおっしゃっていたりするんですけども、それをしてくださって、一番にリードしてくださっているのが公立保育園だと私は思っております。その遊びを通して育まれる力や、すごくわかたけ保育園で育ってきた力で、今1年生になる息子が1人、上にいるんですけども、わかたけ保育園で自分の興味関心をすごく大事にしてくださったからこそ、学校の勉強で、何だろう、不思議だろうってすごく学習面も楽しくてしようがない姿があるんですね。でも、そういう保育をしてくださっている保育園って、果たして小金井市の中で何校あるんだろうということを見たときに、預ける箱があれば、子どもたちの預け先があれば、けがをしなくて毎日元気に帰ってくれば、それで6年間過ごせればいいのかなのというのは、違うんじゃないかなと私は思っています。

幼児期に小学校に滑らかな接続というところをいったときには、小学校に行ってから学びに向かう力を養うために、その芽を養うのが保育園の大切な時期なのかなと思うので、そういうことを今まで何十年もご尽力いただいた公立保育園を、教育環境の向上に力を入れる、保育の質を高めるということ、それだけおっしゃるのであれば、じゃあ、財政をどうにかして公立保育園の環境をどうにか守っていこうというところはどうにか動けなかったのかな、それが難しいほどに財政があれば、取りあえず預け先を確保したからもういいだろうという結論に至ってしまったことがただただ残念だなという感想です。

なので、保育の質を高める、教育環境の向上に力を入れると言っているのであれば、もっと本質的な保育の中身の環境のほうについてもこれからお話いただく機会があるとありがたいと思います。

保護者の方は、決して見た目の預け先がある、数がある、人材は確保できている、な

りたい人もたくさんいる、環境は整えていますという、その上辺だけの環境で子どもたちの環境は見えていないと思うんです。なので、先ほど子どもたちの安心・安全という理由におっしゃいましたが、それは老朽化というところが第一ですかって一番最初にご質問があったんですけど、その理由が多分、腑に落ちないんですよ。安心・安全って、そのことを言ってるんじゃないと思うんです、子どもたちの。

なので、保護者が言う安心・安全とか、保育士の保育の質とか、そこってどういうところなんだろうというところの議論が、多分説明されていることと私たちが求めていること、そして、今わかたけ保育園でそこが本当にありがたいなって感じていることにすごく大きなずれがあると思うんですね。

なので、そういった部分を含めて、でも、それでも財政が苦しくてと言っていたら、納得はできないですけど、そういうふうに向いていくしかないのかなと思えるんですけど、そこに保育の質を高めるためにもという上辺だけの理由を述べられるので、何だかちょっと余計に腑に落ちないというか、余計に何だか反発したくなるというか、そこがあるのかなと、今までの流れを聞いて感じていました。

なので、どうして廃園になるかというところの理由を、もう少し子どものためにという盾の言葉を使わずに、もっとさらけ出してお話をしてくださったほうが、もう諦めがつくのかなと思うので、何か本質的な部分について、今後、市の中でお話しする機会ができてきたらありがたいなと思います。保護者の方は、多分そんな理由じゃ納得しないというか、求めているところはそこじゃないのかなと思うので、よろしく願います。なかなかまとまりませんでした。

○大熊教育長 僕は学校教育のほうを担当しているので、今でも話を聞いているときに、わかたけ保育園を卒園して、小学校でしっかりやられているということを知って、わかたけ保育園の保育はすごかったんだな、すばらしかったんだなということを実感して、よかったなというふうに思っているところです。

小学校側からの話をさせていただくと、小学校1年生に入ってきた子どもたちが、様々な資質を持っている子どもたちが来て、そこで一緒になって小学校1年生の生活が始まるわけなんですけど、これから幼保小の連携をしっかり取っていくとまた少しずつ変わってくるのかもしれないんですが、今の段階ですよ、今の段階で、保育園の差が顕著に見られている、保育の質について顕著に見られているということは、僕のところには上がってきていないんですよ。だから、それぞれの保育園がそれぞれのやり方で本当

に一生懸命やっていたら、成果が学校に今伝わっているんだというふうに僕は思っています。

それで、さらに幼保小の連携を進めていって、子どもたちの安心・安全がもっと担保できるように今後はしていく必要があるだろうというふうには考えていて、今回の方針転換をさせていただいたということなんですね。

でも、やはりそういう意味では、小1プロブレムという社会の課題もありますので、そのことについて、しっかり検討を重ね、研究も重ね、対応策を具体的に考えなければならぬというふうには思っているんで、今回の皆さんに対して報告、こういうことをやりますよという報告はさせていただきました。そういう形が全部の小学校に伝わっていけばいいかなというふうには思っています。

以上です。

○西岡市長 小金井市側と保護者との間に大きなギャップがありますということや、不安であることや、市側の説明が保護者の方々のご理解にはつながっていないと、こういったご意見、しっかり拝聴させていただきました。

私、冒頭申し上げたと思うんですけども、理由については、もう何度も申し上げているんです。一つではないんです。財政でしょって言われて、財政だと言われれば分からないでもないということをおっしゃっていただいたような思いもあるんですけども、施設の老朽化、人材確保、それから、財政的な課題、そして、将来の人口や今の小金井市の保育園の設立状況、それから、まだ不十分な保育のサービス、保育の質を上げていかなければいけない。これからますます財源も確保しなければいけない。こういったものが全て理由であり、何か隠していることもなければ、全てをさらけ出しているつもりです。

これですかと言われれば、施設の老朽化は確かに大きいです。安心・安全を守っていききたいとは思っておりますが、公立保育園5園ある中で、市全体を見たときに、今の申し上げた大きな五つの理由も含めれば、私としては、段階的縮小から廃園という選択肢を取るのが、もちろんまだ案です、市議会で議決されたわけでもありませんので、案の段階であります。ずっとこの間、議論を積み上げてきた中で、経営主体として、公立保育園の経営主体は小金井市でありますので、将来を見据えたときに、この方策案で望ませていただきたいということで説明会に臨ませていただいて、まさに今その渦中にあるところだというふうに理解しています。

安心・安全が何よりも大事だということは、もうごもっともです。もう安心・安全こそが保育に必要なことだと思っております。もちろん建物だけではなくて、子どもたちが過ごす環境、もう全て総合的な安心・安全が大事だと思っております。それこそ、最近、全国で交通事故で悲しい事件が起きていたり、運転手の過失によるところが大きいわけですが、100%防げないまでも、ガードレールの設置、交差点など含めて、子どもたちの安心・安全、そういった交通面もあれば、もう様々な角度からの安心・安全を守らなければいけないということは、もうご指摘のとおりであります。その責任は当然、果たさなければいけないと思っておりますが、将来に責任を持たなければいけないという立場もあって考えてきたことだということで、どうかご理解をいただきたいというふうに思います。ありがとうございます。

○三浦保育課長 いかがですか。よろしいですか。

その他、いかがでしょうか。

じゃあ、ちょっと男性の方。一番後ろの女性の方、いいですか、すみません。

○参加者 私も難しいことはちょっとよく分からないんですけども、上の子から保育園に預けていて、保育生活が今年最後になるので、楽しく過ごして、心置きなく卒園していく予定だったんですけど、もうこの廃園の話が出てきてから、すごく苦しくて、どうしたら回避することができるのかなと考えながら、いつも送迎しています。

市長さんは、ここのわかたけ保育園で遊ぶ子どもたちの姿というのは見たことがあるんでしょうか。わかたけ保育園がなくなるということは、ここで遊ぶ子たちの笑顔がなくなることで、それが市長さんが本当にやりたいことなのかなという疑問と、あと、ほかの市では、公立保育園を減らしていく中で、小金井市は子どもを大切に思っているということで、その大切に思う大人の力で公立保育園を保って、何十年後かに今の園児が親になって、子どもをわかたけ保育園に通わせられるという、そんな小金井市になることを私は望んでいます。なので、子どもには何をすることもできないので、大人がその子どもの笑顔は守ってあげなきゃいけないと思っています。

以上です。

○西岡市長 率直な思いを聞かせていただきましてありがとうございました。

私は通勤途中にありまして、わかたけ保育園がですね。平日は、毎日というわけじゃないんですけども、歩いて市役所に行くときは園庭の東側を通っています。また、自転車で行くときなんもあつたりしますから。市長就任以来、元気に遊んでる子どもたち

の姿はよく見えています。また、お散歩している子どもたちに会うときもありますし。私も実は南小、二中出身で、小金井で育てていただいた市民の一人ですから、わかたけ保育園出身の同級生なんか先輩、後輩もいますし、前原町に育って貫井南町に今、住んでいます。ずっと坂下におりますので、わかたけ保育園の存在は当然、十分理解してきたつもりであります。

わかたけ保育園を卒業、卒園した園児、保護者になって、そしてまた、自分の子ども、わかたけ保育園、そういう地域の中の歴史的な積み重ねみたいなものがこれからもずっと続くように願っていますというお話をいただきました。先ほども申し上げましたけれども、つらい選択なんです、本当に。あるものがやっぱり廃園になるということ、これを好きこのんで選択したわけでは、もちろん決してありません。しばらくは民間委託ということで、運営形態は変わりながらも保育園は存続していくということで、長い間、公立保育園の保護者の関係者の方々とずっと議論してきましたけれども、それは難しかったんですね、なかなか。

そういった中で、社会情勢も変わり、人口統計、将来の状況、施設の老朽化、財政的な課題、人材の確保、高まる保育ニーズ、そういったものを含めまして、総合的に判断をいたしまして、段階的縮小から廃園という結論を出しました。自分が卒業した、僕も小金井で生まれ育ち、小金井で育ちましたから、自分が卒園、卒業した学校なり、幼稚園なり、保育園がなくなってしまう。それはもう当然、寂しいと思いますし、つらいですし、悲しいことです。

全国では、人口減少などによって、ご承知のように、都内でも小学校が統廃合になったり、いろいろなことは起きています、既にですね。小金井の場合は、今、子どもたちの数は非常に増えていて、特に教育長、大変苦労してますが、小学校はもう普通教室がもう足りない状況です。とても市長としてうれしいことです。全国で今、普通教室が足りなくて大変な思いしてる自治体って、ほとんどありません。とてもうれしいことです。小金井で子どもたちが育つ。そして、子どもたちが育ちやすい、いい環境でありたいと市長としてはずっと思って仕事してきました。その気持ちには変わりはありません。しかしながら、置かれている現状や将来を見越したときに、やはり決めなければいけないときはあります。

それは、この公立の保育園のことでいえば、私は、今はまだ方針案でありますけれども、段階的縮小から令和10年3月31日をもって、まず2園については廃園させてい

ただ、わかたけ保育園については、時期はまだ決めていませんが、その後になります。段階的縮小ということであれば、先ほども申し上げましたけれども、スタートから6年間はかかることにはなりますけれども、その対象の一つとして、わかたけ保育園も方針案の中では明記をさせていただきました。

非常に苦しい決断でありますけれども、将来のために、将来の小金井市の子どもたちのためにも私はここで決断をしなければいけないと思って臨ませていただいたということでご理解をいただきたいと存じます。

○三浦保育課長 よろしいですか。

あと15分ぐらいのところ、どうでしょうか。いいですか。

じゃあ、後ろの方から。どうぞ。

○参加者 先ほど一番最初に廃園理由についてお聞きしまして、今日、財政だけではないと。やっぱり小金井の将来、保育のために、将来を担うと考えてという市長の並々ならぬお考えと、今まで悩み尽くしてきたところはすごく共感いたしました。

では、何でもこういうふうの説明していただいて、私たちが腑に落ちないのかということをはかの方たちもずっと考えていまして、私も考えていたんですけど、やはり一番のところは、廃園という具体的な、かつもう不可逆的な、もうやったら絶対戻れないということを実行すると上げておきながら、果たして新しい保育のプランというのは、まだ実行プランにもしてなく、ビジョンとしてしか上げられてないというところがやはり腑に落ちないと私は考えつきました。もちろん今日の話の中で、廃園するから新しい保育のビジョンなり、それを進めていくというわけではないということもあったんですけど、じゃあ、そこは、今、絵に描いた餅になる可能性もある中で、廃園だけ進めるというのはやはりどうしても、なぜかなというところに思ってます。

先ほど民営化の話という話も長年議論してきましたという話がありましたけど、これもやっぱり、そういう民間の議論をしているときも、保護者側はもやもやした中で進めていって、なぜ民営化するかというところが出てこなかった中で、蓋を開けてみると、それが実行は難しいと。それはやるべきではないという結論に陥ったところもありますし、やはりここは新しい保育を進めるのであれば、それをきちんと実行計画に落として、それができるという、なってからでないと、廃園するべきではないと私は思っております。

そこについて、まず一つの質問したいんですけど、新しいすこやか保育ビジョン、

保育の質ガイドライン、または私立保育園、小学校、幼保連携ということが今後進められていくと思うんですけど、これらについて、わかたけが50年間培ってきたこの保育のやり方とか、その辺のノウハウということは必要なんじゃないかと私は思ってるんですね。今後のガイドラインとか、それを言葉で決めてますけど、実際にそれを実行していく中で、やはり一番大事なことは今まで培ったノウハウをどう生かすかで、そのノウハウというところは、きちんとまだ落とし込めてないと私は思っております。

これはわかたけだけではなくて、くりのみ、さくらのほうの保育のノウハウについても、まだ落とし込めてない中で、じゃあ、どうやって今後、保育の質を高めていくかというところをただ文章に落としただけでは全く機能しないと思っております。

質問としましては、じゃあ、本当に廃園してしまって、どうやって保育の質を高めていくのかと。その中でやっぱり公立5園なければ、保育の質を保っていくことはできないんじゃないかと。もしかしたら、市から直接連携できるところは、やっぱり公立になりますから、公立は5園必要なんじゃないかというところは、絶対議論しなきゃいけないと思っております、それを2園でいけるんですかと。だから、そこはどうやって、そこを実行に移していくかというところを先に示してもら必要はあると思っております。

それをきちんと実行プランに移せた中で、やっぱり、じゃあ、できるので、廃園にしましょうというなら分かるんですけど、それがまだきちんと説明されてない中で、廃園だけ進めますというのはなぜかなと。やっぱり廃園ありきで話してるから、そういうふうに言うんだなということはどうしても否めないと思っております。まずは、本当に5園必要、今後の保育をする中で5園必要じゃないということをきちんと説明してもらえませんかと思っております。

以上です。

○平岡保育政策担当課長 ほかの説明会でも同様なお話をいただくケースはあります。やはり保護者の方として、現状が変わるので、その先がきちんとした形になっているものを見せてもらってからでないと、正直判断できないというようなお話かなというふうに思っております。

確かにおっしゃる視点というのも私どもとしては理解するところではあるんですけども、行政のほうで様々なプランを考えていく中で、モデル的な対応をしつつ、実行に移していける状況もあれば、様々な要因が絡まっていて、それをやるための準備を先に行かないと、環境を整えないと、その先に進めないという状況があるかなというふうに思

っています。

このお話をさせていただくと、また理由はお金しかないのかというふうに言われてしまっていますが、実は、民営化をさせていただきたいというお話を内部でも検討してきたときの理由の一つには、やはりお金のこともありました。このお金を何に使うかという話を当時していたのが、待機児童を解消するために保育園を多くつくらなければいけないという説明をさせていただいています。

それが、結果として、民営化することなく今に至っている原因が何かというのは、市の部分も大いにございますので、割愛させていただきますけれども、でも、保育園は増えたということになると、そうすると、そのお金はどこから来たのかということとなります。

先ほど市長のほうから、児童福祉費というものが、ここで他市と比べて急速に多くなったんだよというお話をさせていただきましたけれども、同じように教育費を比べている資料があるんですが、教育費は26市中24位だったり、25位だったりしています。そういうような状況です。それも、一つは市長だったり、小金井市だったりの判断によってやってきた一つの結果だと思っているので、いい悪いという判断は様々あるかと思えますけれども、結局そういうやり方をすれば、何でもできないことはないというふうには思っているんですけども、今回も、ですので、サービス拡充をまずやってからということになれば、何か、どこかに負荷をかけるかした上でないと難しいという状況に來るといふふうにもう既に思っています。

先ほど採用の話もありましたけれども、退職の方が出ないと採用試験が打てないということは、公務員はもう簡単に増やせない、要はそういうことなんですね。ですので、今回拡充をするために、公立で経験ある職員にその仕事を当たってもらいたいといった場合に、今の園での仕事をほっぽり出して、そちらに付け替えるというわけにはいきませんので、それを、そのための人の配置と、園を安定的に運営していくための一定の職員の余力も残しながら対応していったら、かつ職員数をいたずらに増やすことが世の中的にできない中でどうしていくかというところが一つ、経営の面からはあります。

ですので、そういった状況を考えると、私たちとしては、おっしゃるとおり、できてからやるべきだということも考え方はあると思うんですけども、私たちとしては、それを行うための準備の一環として、この取組をさせていただかざるを得ない状況に今あるというふうには考えています。

それから、保育ビジョン、ガイドラインの活用の件ですけれども、確かに周知、取組が遅れているという状況は否めないと思っております。これについては、今年については、まずは、各園での周知、浸透にちょっと力を入れてさせていただいて、研修などについては、次年度以降、毎年実施できるような体制を組んでいきたいというふうには思っております。それだけで全てがすぐよくなると思っておりますけれども、切れ目なく少しでも続けていくところから始めていかないといけないものだと思っておりますので、そのところについては、すぐ結果を出せないところについては、申し訳ありませんけれども、ご理解をいただきたいと思っております。

なお、公立保育園の数の適正というお話は、民営化のときからお話が出ていたかと思っております。現実問題、過去に様々なご意見の中で、公立5園の数の適正な考え方のようなお話もいただいたことがありますけれども、現在、私たちとして、5園という数が適正だというエビデンスを今市のほうで残ったものとして持っているものはありません。ですので、公立として数を増やしていった中で、今、結果として5園あるというのが今の市のほうの結論になっています。

ですので、何園が適正かという考え方はとても難しいというふうに思っております。いろいろな見方ができると思っておりますが、私たちは園を五つ残していくというのが様々な理由で難しいという状況がある中で、経験ある職員を拡充のほうに回させていただきたい。そのためには、園を減らしても、公立は少なくなりますが残させていただいて、残った公立と、ほかの業務についてもらう保育士と、両方で連携させていただいて、少しでもこの公立のよさを小金井市全体の保育の充実に生かしてもらいたいということで書かせていただいたのがこのサービス拡充ということになります。おっしゃるとおり、まだ証明ができてないものであるのは事実ではありますが、思いとしては、そういう思いでつくらせていただいたものだということだけはお伝えさせていただきます。

私からは以上です。

○大熊教育長 50年続いたわかたけの保育は、これからの子どもたちへも重要だという話、本当にそのとおりだなというふうに思います。そういうことがなくなってしまうというのは、本当に大変なことだと思うというのは、教育に携わる人間として理解というか、共感させていただきたいなというふうに思いました。

しかしながら、今、学校は急速に変わりつつあるということもご理解いただきたいと思うんです。いわゆる地球温暖化等々、これから子どもたち、今は保育園に通っている

子どももそうなんですけど、今の小学校、中学生も自分たちが成人する頃は、今の世界と全く違った世界を生きなきゃいけないというふうに感じています。

どんなところがその原因かというところ、一つは、先ほどの話があった、コンピューターの普及によって働き方が大きく変わるだろうと言われ、そうすると、今先生に言われたことを効率的に覚えて、それをテストの成績に反映するという今までの教育をやっているだけでは、実はこれからの予想困難な時代を自分らしく生きていくということは難しいだろう。だから、ディスカッションをたくさん取り入れて、対話を取り入れて、新しい授業に転換しなきゃいけないよというふうに教育委員会としては各学校に大号令を、それこそ言ってるんですね。

そういうふうに変わんなきゃいけないというところはあるんですけど、そういう意味では、保育も新しく変わらなきゃいけないだろうなというふうには思っているんです。だけど、保育というのは、学校と違って、イエナプランであるとか、様々な多様な物すごく、小学校と違って、いろんな保育の仕方がある。年長さんになると漢字練習をさせたり、何だか知らないんですけど、跳び箱をどんどこどんどこ飛んでるような保育園が紹介されていて、それがすばらしいなんて言われてたこともあったように思いますが、僕はそんなこと思ってませんけれど。そういうぐらい多様で、いろいろあるんですよね。

その中で、もう一回戻りますけど、わかたけがやってきた保育ということの重要性というのは、一つ考えていかなきゃいけないと思うんですけど、それであっても、それであってもですよ、やはりこの新しい時代を自分らしく生きていくための保育に変わっていかなければならないだろうと。その辺のところは本当の伝統なんだろうなというふうに思っています。

ですから、この場所もすてきな場所ですし、保育士さんの今までの伝統も本当に大事だというふうに思うんですが、その辺、ご理解いただきたいことは、今のまま残せばいいということではなくて、今後、新しく変わっていくための力になってもらいたいと、そんなふうに僕自身は思うところです。

○西岡市長

12ページに書いてございます保育サービスの拡充案や、先ほど申し上げましたビジョンや質のガイドラインの見解、これが絵に描いた餅になってしまって、結局、段階的縮小で廃園ということになるのではないかというご指摘もいただいたところですが、それは決してあってはならないことだと思います。ここに書いてあることは、取りあえず

列挙したものではなくて、必ずやることなんです。やらなければいけないんです。それで、その成果を上げることができるかどうかは、それはやり方にかかっていますが、ここに書かせていただいた項目は全て実施します。するんです。もちろん量的な側面、質の側面、いろいろな角度からの検証も必要になりますが、成果を上げなければいけないと思っていますので、そこがもう一番重要だと思っておりますので、そういう姿勢で臨ませていただいている。

当然この12ページにあるような、幾つもの項目がありますが、こちらにつきましても、もちろん予算的な措置や人事体制、職員体制、また、その環境、また、民間の保育園の方々との協力、教育委員会との連携、こういったことが重要になってきますので、しっかり取り組ませていただきたいと、こう決意をして臨んでいるところでございます。

以上です。

○三浦保育課長 いいですか。

○参加者 ありがとうございます。しっかりとやっていただきたいと思います。

ただ、一言言いたいところは、やっぱり今年度、じゃあ連携を深めて、各保育園に伝えていくというお話もありましたけど、これから行うこと、または、実行プランをこれから考えるとかであれば、最低限こまではやらないと、本当に2園でできるのですかと。やっぱり5園必要でしたということになると、もう戻れませんので、そこはきちんと議論があるべきだと思います。

今の段階は、私は足りないと思ってまして、最低限こままで計画をつくる、実行プランをつくる、それを何年度に何を拡充していくという、今はビジョンを書いていますけど、これを実行プランに落として、それが本当に2園で回るということがきちんと説明できてからではないかと私は思っていますので、ちょっとそういう観点で、今は時期を遅らす、さらに議論を深めるということは先決ではないかと考えてますので、それをご意見としてお伝えしたいと思います。

○三浦保育課長 では、どうぞ、男性の方。

○西岡市長 2時間過ぎてます。子どもたちの保育は大丈夫ですか。

○三浦保育課長 すみません、ちょっと、じゃあ、できれば短めにお願いします。

○参加者 時間過ぎてますので、そのとおりにさせていただければと思っています。意見とお願いを一つだけ。

わかたけの価値というのは、私もすごく感じていて、それはもう先ほどから何人もの

方がおっしゃっております。私も今年、下の子をわかたけに預けました。上の子、多胎児です。別な園に、民間のほうに預けました。

確かに園庭はあります。もう一中の近くなので、どこというのはご存じになるかと思うんですけども、じゃあ、園庭があるからいいかと言われて、私はそうではないと思っています。上の2人が通っている園庭は、遊具がありません。砂場もちっちゃいんです。近くに上水公園とか小金井公園ありますけど、ほとんど行きません。それが現状です。

わかたけは、これだけの園庭があつて、遊具もあつて、ブランコも直していただいていた、夏。本当にありがたいなと思っていますし、何かあったら坂のところのどんぐり公園であったり、クローバー広場、野川のほうへ行ってくれたり、そういうのをしただけこの環境はすばらしいと思っています。ただ単に園庭があればいいという問題ではないし、近くに公園があればいいかと言われたら、答えはノーだと、私は保護者としては思っています。

同様に、昨年度、保活をしたときにも、駅前の保育園は選びませんでした。妻も電車通勤に今年になって、駅前という選択肢もあり得ますが、でも、遊ぶ場所がなくて、狭い室内にいる保育園に預けるという選択肢は、どうしても、どの園が駄目で最終手段として仕方がないねという選択肢です。確かに駅前保育園があるというのは、魅力的に思う保護者もいるかもしれませんが、それはわかたけ、くりのみ、さくら、もちろん小金井とか、けやきも含めた保育園の方たちは、そうではないんじゃないかと思っていますし、わかたけを含めた公立保育園を選ぶ保護者の方というのは、やはりそこに価値を見いだしているから選ぶんだと思います。

私も下の子がもしわかたけが駄目だったら、小金井を選んでました。それは、園庭があつて、魅力があるからですし、先ほどから繰り返されている先生方が培ってきたノウハウがあるし、伝統、文化があるからです。それは、この職に就いているから分かるところもありますし、それは、紙とか、データとか、記録で残せるものではないと思っています。

だからこそ、この保育園廃園ということには納得はしていないし、先ほど保育士が替わるよりも建て替えということの選択肢があると市長はおっしゃっていましたが、私たち保護者の目からすれば、私一人としては、たとえ何年か場所を建て替えて戻ってくるということであってもいいと思っています。それだけ伝統があるし、文化、風土があるからです。なので、それはやはり、場所があるからとか、園庭があるからではな

くて、この場所にわかたけがある。その場所にくりのみやさくらがあるという、やはり地域の意味というのが価値があるということを改めてお伝えしたいなと思っております。

同様に、先生方の話も出ていましたが、10ページにある巡回保育支援チームの設置。幾つもある保育園を3人から5人の体制で本当に支援ができるのかということは非常に疑問です。先ほどから私も、その見えない文化とか財産というのは、ちょっと回っただけでは分からないと思いますし、それを連携するというのは、かなりの時間がかかるかなと思っています。そういった点からも、やはり納得できていない保護者の方は多いのではないかと考えていますので、これはご意見として受け止めていただいて、ご回答は結構です。

最後に意見なんですけれども、たくさんの意見を聞く場を設けていただいていることはありがたいんです。ただ、やはりこの場に参加できない保護者の方というのも多いのではないかと考えています。幾ら土日だとしても、そのときにお仕事があったり、やはり家庭の事情で参加ができないという保護者はいると思います。子どもの数だけ保護者がいるというのは教育長も重々承知だとは思いますが、ぜひこういった場に参加できない方の意見を聞くことも何か検討していただきたいなと思っております。

学校なんかだと、GIGAスクールでパソコン1人1台、もう届いていますけども、簡単にアンケートに取ることも、もう今の子どもたちできております。そういった形で参加できなかった方も思いはあると思いますので、何かしらの形で意見をいただく場、もしくは環境を整えていただきたい。多分そういう形であれば、もっと多くの意見が出てきますし、何より、最終的に市長が総合的に判断するとおっしゃってはいたんですけども、それで、私たち市民の、それから、保育している私たち親のニーズには合っていないと思いますので、ぜひそういった場を設けていただきたいということを最後、ご意見させて、終わりたいと思います。よろしくお願いします。

○三浦保育課長 ちょっと1点、もう1つはいいですか。

○参加者 大丈夫です。

○三浦保育課長 よろしいですか。

○参加者 大丈夫です。

○三浦保育課長 大丈夫ですか。すみません。

では、ごめんなさい、ちょっと2時間過ぎてしまったんですが、最後これだけはという方がいらっしゃれば。よろしいですか。

では、すみません、ご協力をいただきましてありがとうございます。

以上をもちまして説明会のほうは終了させていただきます。

なお、今回の記録につきましては、個人情報等々に配慮させていただきまして、後日、ホームページのほうで公開させていただきますので、あらかじめご了承ください。

すみません、ちょっと2時間回ってしまいました。本日はご参加いただきましてありがとうございました。

閉 会